

スマート式の新奇性と市場占有率

2022年の後半は6.5号機からスマスロへと移行が行われたパチスロ市場が大きく業績を伸ばしました。

それにもなって、パチンコのハイミドルからパチスロへお客様が移動したことが数値の変化から読み取れます。

これは射幸性に対する移動だといえそうですが、言葉を変えれば業界全体のパイが変わっていないことを現わしています。

客数の下がる年末ということもありますが、スマスロが出現してからも市場の総客数が増えていないことは、やはりヘビーユーザーが主体となっていることを意味します。

しかしまだスマスロの市場導入率は2%程度でしかなく、これからが本番ということになります。

問題はこの高い射幸性遊技機の比率です。

自店舗の中における設置比率ということではなく、市場全体での設置比率がこれ以上高まって行くことに対する不安です。

ライトユーザーがあつてのヘビーユーザーという視点から考えた場合に、パチンコもパチスロも射幸性の高いハイスペックに偏重し過ぎてしまえばバランスを崩してしまいかねません。

実のところ、スマスロがゆっくりと導入されているのは新奇性としての面からいえば、幸せだったのではないのでしょうか。

小型店に導入されたスマスロで高い粗利額を出せているのも、この新奇性によるところが大きいのはいうまでもありません。

これがあつという間に市場導入率が30%を超えるようであれば、すでに陰りが前面に出ていたかもしれません。

もちろん、まだビックコンテンツが販売されていないということと、ライトスペックが販売されていないという現実があるので、まだスマスロの市場占有率を語るには早過ぎるかもしれません。

それでも参加人口が伸びないことを前提に考えれば、30%前後で飽和することになります。

時間的には、2024年度になるのでしょうか？

この飽和という意味は、これまでと同じように商品ライフサイクルが短命化するということであり、先行導入していた機種が中古として市場に流れ出ることを現わします。

中型店のスマスロによるバラエティーコーナーが本格的に形づくられる時期だともいえそうです。

コイン機としての6.5号機もスマート式に代わって行くのは時間の問題だとすれば、飽和だとか言っている場合ではありませんね。

それでもビックヒットが出て来なければ、後からスマート式を導入予定の企業はなんの恩恵も受けられないことになりそうです。

もはやありきたりの言葉ですが、さらに二極化が進むことになるのは避けられないのかもしれない。